

した。
この手塚誌は大正末期から昭和全期と平成も二十年余経過しているため、激動の二十世紀を写し取るという難事業
手塚誌編纂という大きな役目を仰せつかり編纂委員一同できる限りの努力は致しましたが、当初意図したところ迄
ここに平成版「手塚誌」をお届けすることができて編纂委員一同、喜びに堪えないと同時に永年に亘り御協力頂いた
礼申し上げます。

平成二十五年五月吉日

目次

第一章 手塚の歴史

第一節 総説 手塚というところ

3

第二節 村のあけぼの

7

一 塩田平の誕生

7

二 弥生・古墳時代

10

三 手塚氏とその遺跡

11

(1) 大城（おおしろ）

12

(2) 唐糸観音堂 (3) 駒の足形 (4) 手塚太郎五輪塔 (5) 応慈山光盛寺跡

13

(6) 弁財天跡 (7) 立石 (8) 中禪寺の文化財 (9) 馬場跡 (10) 塩野神社の参道 (11) 諏訪明神

14

四 中世塩田の支配者たち

14

(1) 最勝光院塩田庄

14

(2) 村上氏から真田氏まで

15

五 近世の手塚

16

(1) 領主 (2) 村の組織

16

(3) 宝永三年の差出帳

17

(4) 年貢割当状と免相（めんあい）

27

(5) 助郷

28

(6) 大行満願海と手塚

30